



第468回 平成28年6月16日(木)

テーマ▶「純情(すなお)な心で
～出会いに感謝して～」

講師 埼玉県倫理法人会女性委員長
健やか代表 中川律子氏



昭和32年1月生まれ。

共立女子大学 家政学部 生活美術学科卒業
テキサスカイロプラクティックカレッジ卒業

☆AACP米国カイロプラクティック医師学会会員
☆日本成人病予防協会 健康管理士一級指導員

第469回 平成28年6月23日(木)

会員講話

①テーマ▶「後継者倫理塾
入塾後の気づき」

講師 株式会社いわさき 取締役部長
天野正幸氏



高校では、父のすすめもあり自転車競技部に
入り選手として訓練を積んだが、プロになる為の1秒の壁を破れ
ず卒業。自転車販売会社から転職して(株)いわさきに入社。新規部
門の「冠婚葬祭互助会」にて会員募集企画運営を学び今日に至る。

岩崎会長の励めで「後継者倫理塾第13期生」として入塾10ヶ
月、現在卒塾に向けて奮戦中。塾で論語を学んだことが、今後の人
生に大いに役立つと確信している。各企業の社長様には、是非後
継者塾を利用されることをお励めします。

文責 岩崎

②テーマ▶「倫理法人会に入会して」

講師 入間市倫理法人会 朝礼委員長
金子郵便局長 加藤幸男氏



子供の頃は「郵便局長の息子」という立場に
プレッシャーを感じていた。中学から地元を離
れ、そのまま高校に通学した。高校2年からは、池袋の叔父のマン
ションで従兄弟と自炊生活を始めた。思ったことは、「親の有難さ」で
した。

埼玉大学工学部を卒業の後、前田建設工業(株)に入社、多くの工
事作業所で経験を積んだ。結婚後、父親の退職時期が迫り、「二代続
いた郵便局を私が継がずに他の方に預けていいのか」と迷った末、
前田建設工業を退社して郵便局を継いだ。その後友人に誘われ倫
理に入会。感じたことは、私の両親・祖父母から事ある事に教えら
れていたことは「倫理の学びと共通している」ということでした。

座右の銘「粗にして野だが、卑ではない—石田礼助」

文責 岩崎

第470回 平成28年6月30日(木)

テーマ▶「万人幸福の葉を実証する」

講師 長野県倫理法人会 中信地区長
ホテル玉の湯 取締役会長 山崎良弘氏



私は3年会社勤めをして今の松本浅間温泉
の玉の湯に婿入りしました。観光客の減少する
浅間温泉の街づくりの一環でそば打ちを始めたら、私の人生は一
変しました。学生時代スペイン語を専攻した私は、あれよあれよと
いう間にスペインカンタブリア州の要請を受けそば祭りを開催し
大変な好評を頂いたのです。またこの時の紀行文が JTB 交流文
化体験最優秀賞を受賞し、さらに自分で手掛けた「信州そば音頭」
が通信カラオケDAMIに採用され、「職場の教養」に私の話が出た
りと大変幸せを感じる事が続いたのです。ところが振り子の原理
が働くのです。社長である私の判断ミスで社内に大問題が起こり、
私は体調を崩し、続いて社員寮で水道管が破裂し、また続けて自
宅に放火され。最後には娘から絶縁状を突き付けられたのです。
ずっと仕事一本で来ましたが、私の心は「俺が全て取り仕切って
やっているのだからだれもが俺に感謝して当然だ！」と驕りの心にな
っていたのです。そして勉強していた倫理に助けられるのです。
疾病信号・運命自招・子女名優・要物必与、全てあてはまるのです。
すぐみんなに謝り、社長を退任しました。お陰様で今ではまた家
族、社員ともに和を保ち健康で頑張れる日々を送らせて頂いてお
ります。倫理のおかげと感謝しております。 文責 出川

第471回 平成28年7月7日(木)

テーマ▶「実践力」

講師 社団法人倫理研究所
首都圏方面 方面長 森本 宏氏



私は倫理を学んで好きな人がたくさんいま
すが実は嫌いな人を好きにできる方法がある人か
ら学ばせて頂きました。その人は香川県の会長
だったのでその人の会議はいつも怒鳴りっぱなしでした。ひどい
ので意見をお伝えすると、「お前に言われる筋合いはない！」といわ
れ、食事をするとひどい犬食いなので意見すると、「うるせえ、黙っ
てろ！」でした。大嫌いでしたが県の会長ですので仕事だけのお付き合
いはしていました。ある日大事な会議なので来てくれと言われ、行くと
延々3時間も私に対するクレームを聞かされました。途中あまりの理
不尽さに私も腹を立て、一触即発という雰囲気になりました。しかし1
時間も過ぎるとひどい話でもそれだけ怒鳴るには理由があるはずだ
という気持ちになり、自分の我を張っていた私の気持ちに変化が起
き、なんとか反論せず相手の立場で聞きとおした時です。会長は私に
辞表を出したのです。つまりそれだけの覚悟を持ったクレームだった
のです。ああそうか自分の力が足りなかったな、と思った時も辞職
を決意しました。そして会長の辞表を受け取ろうとした時、「君は私の
話を最後まで反論せず聞いてくれた。もう一度宜しくたのむ。」と言
って辞表をしまってくれたのです。翌日怖かったのですが電話で謝意
と告げると「水に流そう」と言ってくれたのです。私は今後誰にでも
「好意」を持って接しようと思いました。そして改めて会長の会社にお
邪魔すると、私と同じ年齢のご子息がいらして、私を自分の息子のよ
うに考え厳しく指導してくれた事を知りました。私の「好意」はどんど
ん大きくなりました。すると相手の短所が長所に見えてくるのです。
会長は怒鳴る相手には前日に立場上君を怒鳴るが許してくれと伝え、
また突然怒鳴ってしまった相手には翌日訪問してその意味を相手に
伝えしっかりフォローしていたのです。また食事に連れて行ってもら
うと会長は犬食いではなく、ただの早食いだったのです。「好意」を持
つとこんなに変わると教えてくれた大好きな人です。 文責 出川